

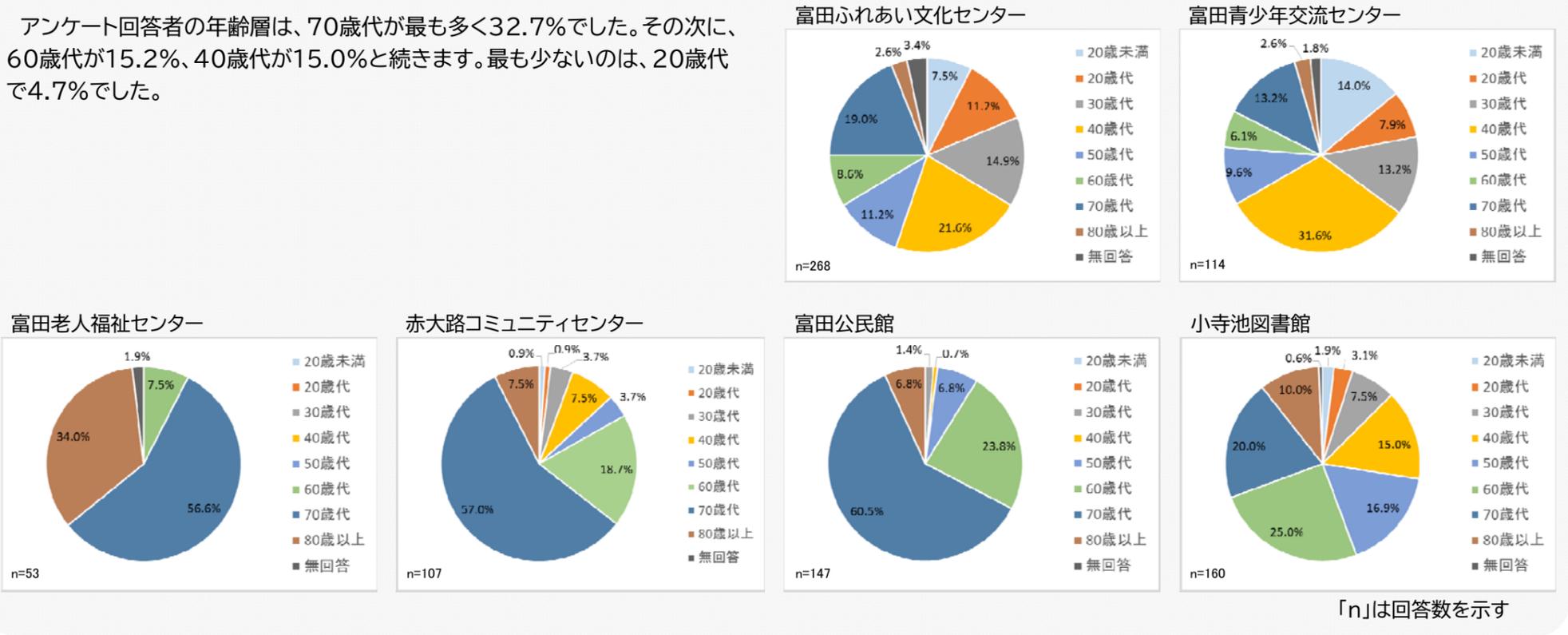
# 施設利用者アンケート調査結果について

公共施設再構築にあたり、富田地区内の公共施設において「公共施設の利用に関するアンケート」を実施しました。

アンケートは、令和2(2020)年8月17日(月)～8月31日(月)の期間に、富田青少年交流センター、富田ふれあい文化センター、小寺池図書館、富田公民館、赤大路コミュニティセンター、富田老人福祉センターの6施設で実施し、回答数は984件となりました。そのうち、有効回答数は849件(有効回答率86.2%)です。アンケート結果の一部を抜粋し、以下に示します。

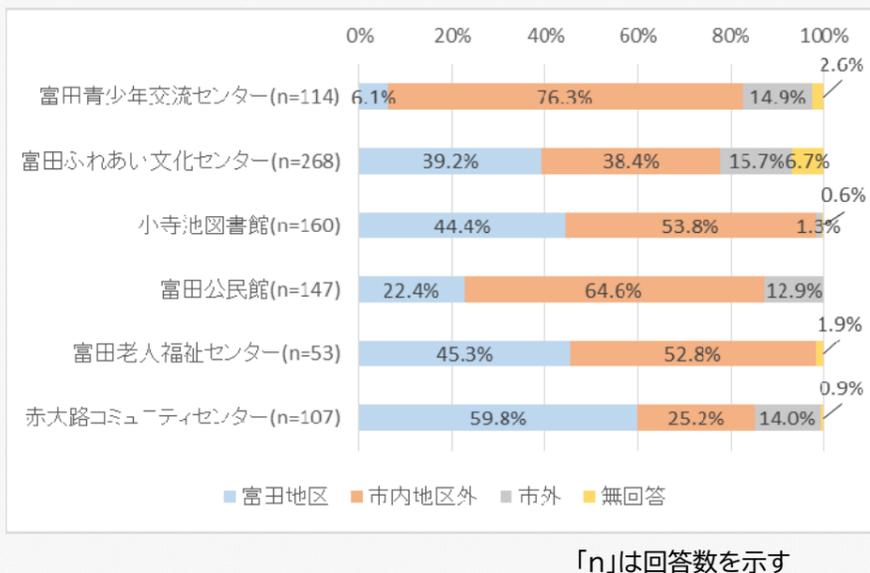
## 1 回答者の年齢

アンケート回答者の年齢層は、70歳代が最も多く32.7%でした。その次に、60歳代が15.2%、40歳代が15.0%と続きます。最も少ないのは、20歳代で4.7%でした。



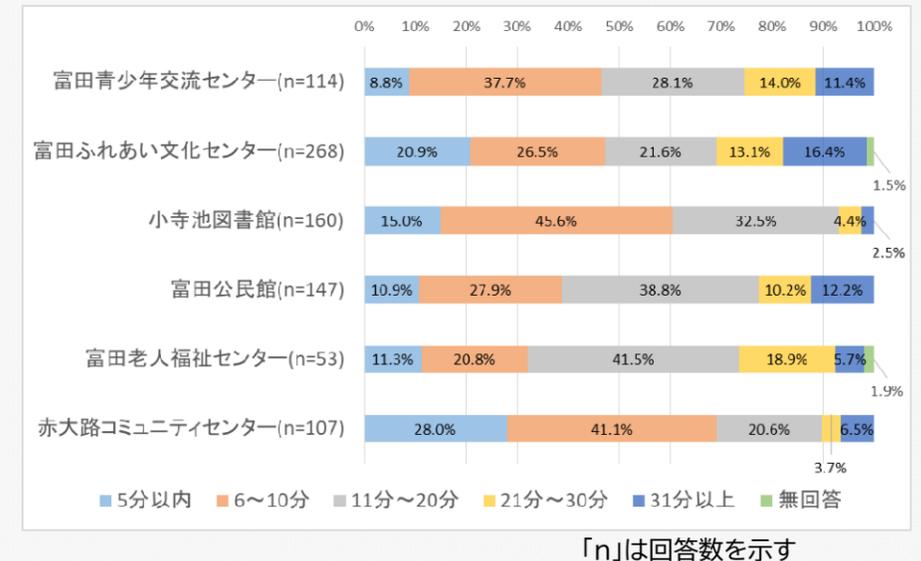
## 2 回答者の居住エリア

アンケート回答者の住まいについて、赤大路コミュニティセンターは、富田地区内が約6割を占めており、地区コミュニティの拠点となっています。富田青少年交流センター、富田公民館は、市内地区外からの利用が多く6割を超えています。とりわけ、富田青少年交流センターは、富田地区に限らず、広域から利用者が訪れていることがわかります。小寺池図書館と富田老人福祉センターは市外の利用者がほぼ無く、市内地区外の利用者が過半数以上を占めています。



## 3 自宅から施設までの所要時間

自宅から施設までの所要時間は、全ての施設で20分以内と回答した人が、7割以上となっています。

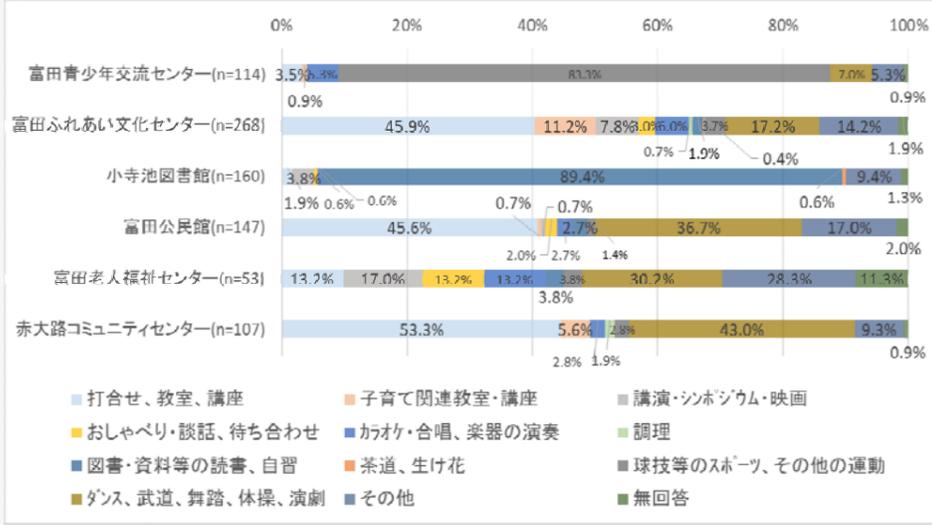


#### 4 施設の利用目的

富田ふれあい文化センター、富田公民館、富田老人福祉センター、赤大路コミュニティセンターの4施設では、「打合せ、教室、講座」、「ダンス、体操等」が利用目的の多くを占めていることが分かります。

富田老人福祉センターは「おしゃべり・談話、待ち合わせ」が13.2%で、全施設の中で一番高く、地域の憩い場としての機能を果たしています。

「子育て関連教室・講座」の利用が、富田老人福祉センター以外の5施設で見られ、地区全体で子育て関連事業の需要があることが分かります。

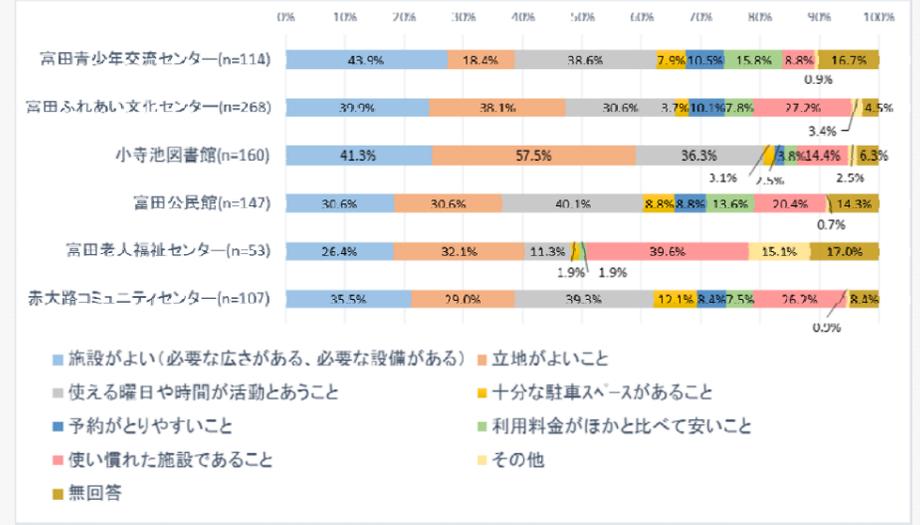


「n」は回答数を示す

#### 5 施設を選ぶとき、重要視すること

施設を選ぶとき、重要視することは、多くの施設で「施設がよい」、「立地がよいこと」、「使える曜日や時間が活動とあうこと」の回答が上位であり、合計すると、約6~8割を占めました。

富田老人福祉センターについては、「使い慣れた施設であること」の回答が最も多く、約4割を占めています。高齢者にとっては、利用の気軽さが重要視されていることが分かります。



「n」は回答数を示す

#### 6 富田地区がどのような街になればいいか。(自由記載)

有効回答数849件のうち自由記載数322件(自由記載数率37.9%)でした。複数回答者を含んでいるため、分母(n)は492となっています。5の大分類(その他を除く)、11の中分類、20の小分類に分類できました。アンケート結果を以下に示します。

大分類	中分類	小分類
子育て・学び(70)	子育て(70)	子育て環境や制度の整備(21)
		子どもの遊び場の充実(公園等)(41)
		子育て世代・子どもと地域とのつながり(8)
福祉(25)	高齢者・障がい者(25)	高齢者・障がい者の活躍(役割・活き活き)(7)
		高齢者・障がい者に優しい、充実(15)
		バリアフリーの整備(3)
文化(92)	歴史(61)	歴史や文化を生かしたまちづくり(55)
	自然(20)	まちなみや景観を大切にする(6)
	スポーツ(11)	緑が多くきれいなまち(自然)(20)
交流(170)	コミュニティ(103)	スポーツ・健康の振興(11)
		活気のあるまち、積極的な市民活動(20)
		多世代・多文化交流(イベント)(33)
	居場所づくり、人とのつながり(18)	
公共施設(67)	住みやすい(優しいまち・安心な暮らし)(32)	
	公共施設や公園の施設整備や回遊(47)	
安全・安心(106)	防災(48)	公共施設の利便性や集いの場・情報発信(20)
		災害に強い(48)
		見守りや犯罪のない街(29)
その他(29)	防犯(29)	公共交通や道路歩道の整備(29)
		道路交通(29)

( )内の数値は回答数を示す

自由記述を5つの項目に分類すると、「交流」が170件と最も多く、次いで「安全・安心」が106件、「文化」が92件、「子育て・学び」が70件でした。

自由記述をさらに11に中分類すると、「コミュニティ」が全回答の23%、「公共施設」、「子育て」、「歴史」が15%を占めており、公共施設などでの多世代交流やイベント、人とのつながりを感じられる居場所に高い関心があることがわかります。

